



楠の葉

佐賀大学同窓会報 第40号



発行日 2024年1月1日

発行 佐賀大学同総会

佐賀市本庄町1 佐賀大学 菱の実会館内
TEL 0952-23-1253
FAX 0952-25-5700
E-mail dousoukai@sadai.jp
ホームページ http://sadai.jp/alumni/

編集 会報編集委員会

目次

巻頭言

芸術地域デザイン学部同窓会 会長
石丸 圭汰・・・1～2

支部、地区だより

神崎地区会 田代 高規・・・2
熊本支部会 藤本 勝・・・3
筑後支部会 大津 数也・・・4
東海支部会 秋吉 英治・・・5

佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会

大学との意見交換における議題への回答・・・6

学校に来てみませんか！

佐賀大学の風景・・・7

同窓会 NOW

有朋会

「ピンチをチャンスに変えて」
小松美和子・・・8

楠葉同窓会

「佐大生起業家として」
範 東洋彦・・・8

医学部同窓会

「灯」 近藤 謙佑・・・9

菱実会

「佐賀大学に入学して半世紀」
樋口 幸弘・・・9

農学部同窓会 井出 みずき・・・10

芸術地域デザイン学部同窓会

「支えてくれる仲間たち 制作のリアリティ」
松尾 匠・・・10

第31回佐賀県青春寮歌祭

佐賀県青春寮歌に参加して
古賀 季夫・・・11

ホームカミングデーの開催

水田 和彦・・・12

佐賀大学大学祭・医大祭

第26回佐賀大学 大学祭「彩紅」
大学祭実行委員長 山田 英駿・・・13

学園祭への協賛の御礼と報告
第4回医大祭運営委員長 植松 福・・・14

お知らせ・・・15

ホームページ閲覧を・・・15

佐賀大学同窓会報「楠の葉」の発行について・・・15

同窓会からの連絡・・・15

ご意見メール等募集
名前・住所変更等ご連絡のお願い



学部のこれまで、芸術のこれから

芸術地域デザイン学部同窓会 会長 石丸 圭汰 (芸地デ R2 年卒)

新年明けましておめでとうございます。

同窓会会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。芸術地域デザイン学部同窓会会長の石丸圭汰と申します。佐賀大学に芸術地域デザイン学部が設立され8年、同学部の同窓会が発足して4年を迎えようとしている今、こうして佐賀大学同窓会会報で挨拶をさせていただく

事を大変嬉しく、光栄に思います。

さて、2016年に設立された芸術地域デザイン学部ですが、同窓生の皆様にはどのくらい身近になっているのでしょうか。旧教育学部特設美術科(特美)と前身の文化教育学部美術教育課程(美工)から、現在はどういった学部なのか、在学学生や卒業生がどのような活躍をするのかなど、まだ

まだこれから出てくるものも多いのではないかと思います。私は学部1期生に当たりますが、この場をお借りして私から見た芸術地域デザイン学部のこれまでとこれから。話しできればと思います。

芸術地域デザイン学部には芸術表現コースと地域デザインコースがあります。1年次に両コース共通して地域に纏わる様々な領域、芸術の基礎的な表現などについて学び、2年次からさらに専門の分野に分かれます。体験として学ぶことはとても幅広く、専門的に探求して得た経験はその後の糧となります。それらを活かした同学部の学生たちの活躍は、地域の中での実践的な表現活動、コンテンツ制作による企業や社会との連携、全国規模の公募展での入賞など非常に多岐に渡ります。卒業後は大学での豊富な経験を活かし、アーティスト、クリエイター、デザイナー、映像監督、学芸員などに加え、教員、公務員、一般企業に就職する方も多いです。これからも優秀な卒業生たち

を輩出し、大いに活躍する姿を見せてくれる事を楽しみにしています。

ここまでは具体的な成果や活躍などを紹介しました。しかし、芸術がもたらすものには観測しづらく、とても長い時間が掛かって表れてくるものもあります。芸術とは所謂、絵を描いたり、ものを作ったりする事という印象があるかもしれませんが、その意味が産まれるのは作り手だけにある訳ではありません。見た・触れた人それぞれに新しい視点をもたらし、その視点は人、町、景色、あらゆる課題との向き合い方をより豊かにしてくれます。同学部は設立時から『芸術で地域を拓き、芸術で世界を拓く』をテーマに掲げました。これからゆっくりとはありますが、学部を中心に、佐賀大学、日本、そして世界中の人々のもとへ我が校の芸術が届き、そして拓かれていくでしょう。いや、案外それは気づかないところでジワリジワリと始まっていて、思ったよりも身近なところで発見できるかもしれません。

支部だより

神埼支部会

令和5年9月9日(土)、4年ぶりに第6回神埼地区総会・交流会を開催しました。参加者は会員26名で、本部から水田会長はじめ来賓の皆様にも6名もご臨席をいただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。

今回、プログラムをひと工夫しました。それは、「事務局からの報告」を加えたことです。会が発足して7年、メンバーが若い方に少しずつ入れ替わり、初参加という人が増えたため、会の目的やこれまでの経緯について説明をいた

田代 高規 (教育 S50年卒)

しました。組織を維持発展させていくためには、総会出席者の確保が急務ですが、会員の帰属意識を高め、参加者を確保していく上で効果的だったと感じています。

総会資料に、「学生歌～楠の葉の～」、「巻頭言」、「南に遠く」の歌詞を掲載しました。リーダーの掛け声に合わせて、初めて聞くという人も交えての大合唱となりました。来年の交流会が待ち遠しいです。



熊本支部総会

令和5年10月7日、熊本市の「KKR ホテル熊本」において佐賀大学同窓会熊本支部の総会を開催しました。

参加者は会員47名と佐賀大学及び同窓会本部から7名の参加を頂きました。

総会に先立ち、三原順一さん（S58年農学卒）から「地球環境にやさしい農業を目指して」というテーマで、農薬の使用でアレルギー患者が増加している現状を改善するため、昆虫による天敵農薬の可能性に関し発表をしてもらいました。

総会では高口会長（S53年経済卒）が、「4年ぶりの総会に前回以上の参加を頂き有難うございました。本日は、旧交を深め楽しんでください。来年のさが桜マラソンにエントリーしました。」と挨拶しました。

来賓の挨拶として、児玉学長より「大学の現状とこれからについて」パンフレットで説明を頂き、10月28日のホームカミングデーの紹介をして頂きました。

事務局長 藤本 勝（理工 S51年卒）

また、同窓会本部の水田会長からは、同窓会は、大学時代に還り自分の存在価値も見直す場である。ダイヤモンド半導体でノーベル賞を佐賀大へ。楠葉会の江口会長から、同窓会をオープンエアでもっと多くの若者が参加できるようにしたいとの意気込みを語られました。

そして、「悠々知酔」をグラスに注ぎ、立場副会長（S51年農学卒）の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。

学部ごとに演壇に上がり、それぞれの近況を紹介し、大いに盛り上がりました。

最後は、「楠の葉の」を全員で斉唱し、大串副会長（S61年医学卒）の万歳三唱で、同窓会活動の発展を祈願し、散会しました。

なお、会場を飾った嶋田薫さん（H2農学卒）栽培の「胡蝶蘭」は、幸運の会員10人が持ち帰りました。

会員の皆様を始め、大学や同窓会本部の関係者の皆様方に、心から感謝を申し上げます。



筑後支部会

筑後支部 支部局長 大津 数也 (経済 S49 年卒)

令和5年11月11日柳川市内ランヴィエール勝島でコロナ禍により開催できなかった筑後支部懇親会を5年ぶりに開催することが出来ました。

来賓には各学部同窓会から会長さん他代表の方、更に今回は初めて学長も参加され佐賀大学OBの兒玉学長にも参加いただきました。全員での写真撮影の後、支部長挨拶では筑後支部誕生のいきさつの話し・来賓の紹介そして兒玉学長に来賓代表の挨拶を頂き、青天の霹靂の学長就任や躍進著しい佐賀大学の現況の話しがあり、また学長の飾らない人柄に参加者は我が意を得たりの思いでした。

懇親会に入るとアトラクションで今回初めて「アタマ柔らかクイズ大会」を実施しました。これは年配者には今後増えると予想される認知症予防のため・そして現役世代には仕事に活用してもらうために脳ミソをフル回転させようという趣旨で実施、難問のトンチクイズに来賓始め参加者は頭を抱えていましたがそれでも10問中7問正解で参加者のアタマは柔らかい事が証明されました？そして正解者に用意していた景品残り3個は全員でのジャンケン大会で楽しみました。また飛び入りで今回初参加のOBから久留米にわかの披露もあり会場は笑いで溢れました。

フィナーレは恒例の「巻頭言・南に遠く」、実は90歳を超えても元気に披露していただいていた福田和夫先輩が昨年亡くなられ実施が危ぶまれていましたが、福田先輩の遺志と佐賀大学同窓会の誇りと伝統を引き継ぐべく不知火寮未入居の最年少世話人(実行委員)が必死に練習し見事に演じてくれ、そして「楠の葉の」と続き大いに盛り上がりました。

最後に今回の筑後支部会の開催にあたり同窓会事務局スタッフの皆さんには大変お世話になりありがとうございました。今後ともご指導いただきたくよろしくお願いします。



東海支部会

支部長 秋吉 英治 (経済 S48 年卒)

令和5年11月25日(土)13時から愛知県名古屋市のデザートレストラン paff パフ名古屋駅店で開催された佐賀大学同窓会東海支部(不知火会)総会に参加してきました。経済、理工、農と文理学部卒業の17名が参加されました。また、兒玉学長にも参加いただきました。総会では支部会長の挨拶、来賓挨拶、事業報告などが行われました。引き続き懇親会が行われ参加者全員から挨拶がありました。東海支部には200名を超える会員がいるそうですが参加者は11名。そのうち9名が60歳以上でした。救いは32歳の会員が参加されていたことです。改めて、若い会員にリピーターになってもらい、輪を広げてもらえるよう同窓会の魅力や意義を高めることが急務だと感じました。今回、東海支部会が昼間におしゃれなカフェで開催されたことは、気軽に参加できる環境作りの第一歩なんだろうなと思いました。さらに一歩進んで、参加してみようかなと思わせる目玉があればいいなと思います。例えば、学生に人気があった名物教授(またはサークル顧問)をゲストに呼んでみるのはいかがでしょうか。思い付きでもいいのでご意見を聞かせてください。



令和5年度の佐賀大と 佐賀大学同窓会との 意見交換会

今年度は、10月26日(木)に予定されておりましたが、大学側の都合で対面での会議は中止となり、文書による書面会議という形になりました。

下記のとおり、佐賀大学同窓会として話し合いの議題について3点あげておりましたので、大学からの回答を記し、意見交換会の報告にかえさせていただきます。

議題 1:

日本、そして佐賀県の教育界の現状を鑑みると、教員不足、教員離れの問題が起きています。特に教員不足については、深刻な問題となっています。今後、小学生、中学生の教員数の十分な確保が望まれます。しかし、そのような現状でも、教育学部以外の他学部からの教員志望者も多くなってきている現状があります。

そこで、これからの学生に対し、大学生として学生が転学しやすい制度(教員になるための単位の振り替えなど)や他学部からも教員になりやすいシステムの構築や制度の改変などについて、大学としての考えをお聞かせください。

【回答】

学部における教員免許状の取得状況・就職状況の推移は、別紙のとおりです。

教育学部以外の学部(以下「他学部」という。)を見てみますと、教員免許状の取得状況は一定ないし、一部でやや減少していますが、教員への就職者数は一定の数値を維持できていると感じています。また、すべての学部で転学部制度を整備しており、学生が制度を利用しにくい状況というのではないと考えています。教育学部への転学部希望は過去5年間で1名のみで希望通り教育学部へ転学部しています。

大学としては、引き続き他学部の学生のうち教員を希望する学生の支援を続けるとともに、教員養成学部である教育学部の機能を強化し、多くの教員を輩出できるよう、努力を続けてまいります。

議題 2:

市民から見ても大学の目立つ施設であり、大学の顔ともいえる美術館カフェが現在閉鎖されていることは残念な現状です。この状況は、市民からの大学生に対するイメージダウンにつながるのではないかと危惧されます。

そこで、大学として美術館カフェの再開、活用についてはどのようなお考えをお持ちなのかをお聞かせください。

【回答】

これまでの間にいくつかの団体・企業に問い合わせをしましたが、コロナ禍により学内の学生数が少ないため、断られている状況が続いてきました。なお、昨年度から、2つの団体・企業から問い合わせやカフェスペースの見学等をいただいている状況です。

美術館のカフェスペースの利活用が進むよう、引き続き努力を続けてまいります。

議題 3:

学生にとって後援会費、同窓会費についての理解が不十分であるため、会費納入率の低下によって学生が受けられるサービスなどの把握に混乱が生じています。

そこで、後援会費、同窓会費の納入の重要性と意義を周知徹底してもらうため、入学時、または在学途中の学生に説明できる機会を今以上に設けていただくようお願いしたい。

【回答】

大学としても後援会費、同窓会費の納入率の向上は必要であると考えています。たとえば入学式における新入生オリエンテーションなど、同窓会から説明をいただく機会を増やすことは可能ですので、お申し出ください。

佐賀大学同窓会事務局長 宮崎 祐治 (教育 S54 年卒)

大学に来てみませんか！～佐賀大学の風景～

佐賀大学美術館

芸術地域デザイン学部同窓会 会長 石丸 圭汰（芸地デ R2年卒）

佐賀大学美術館は2013年（平成25年）に開館し今年で10周年を迎えました。それを記念して10月に「響きあうアート ―美術の拡がり―」が開催され、佐賀大学の教員らの作品が並びました。



[正面からのアングル]

企画展のみならず、佐賀大学生や地域の子どもの作品も時には並び、市民にも身近に感じられる美術館です。



[斜めからのアングル]

前面のほとんどがガラス張りで出来ていて、美術館でありながら解放感のある造りになっています。

リージョナル・イノベーションセンター

佐賀大学同窓会 理事長 松尾 和俊（経済 S62年卒）

リージョナル・イノベーションセンターは、平成24年に設置された産学・地域連携機構を発展・機能強化し、平成29年10月に地域と大学をつなぐ新しい中核拠点として、佐賀大学の産学交流プラザに誕生しました。本センターは、佐賀県を中心とする産業界や地域機関との連携を促進し、佐賀大学の研究力の向上を支援しています。地域と共に未来に向けて発展し続ける大学として、ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレータ（URA）を中心として業務を行っています。



産学交流プラザ外観



インフォメーションセンター

同窓会NOW

有朋会（教育・芸術地域デザイン学部）

「ピンチをチャンスに変えて」

佐賀大学教育学部 小松 美和子
 （教育 H10 年卒／教育学研究科 H13 年卒）



1997 年度（1998 年 3 月）に佐賀大学教育学部総合文化課程造形文化コースを卒業しました。当時は、美術・工芸の複数教員免許を持っていても、教員になるのは狭き門でした。1 年就職浪人をして、以前より興味のあった被服を学ぶために佐賀大学大学院に進学しました。大学院では、美術で学んだ知識を生かし立体裁断法を学びながら、ファッションコンテストに出品し、賞を頂くなど充実した 2 年間で過ごしました。家庭科の免許も取得しました。その経験もあり、福岡にあるファッションの専門校に 15 年間勤めることができました。その後、縁あって、熊本にある短大で 5 年半、家政学の教員として研究者のスタートを切りました。ブランクがあり研究をすることの難しさを痛感している時に、コロナの感染が拡大しました。さまざまな業務がストップしたため、その間に博士号を取得しました。そして、2023 年 4 月よ

り佐賀大学教育学部の被服学の教員として働くことになりました。今は、母校に帰ってこられた嬉しさと佐賀で働ける嬉しさでいっぱいです。佐賀大学での経験と思いは計り知れません。これまで様々な試練がありましたが、いつも危機をプラスに変換してきたことが、このご縁につながっているように思います。

これからは、家庭科の教員を目指す学生の育成に努めます。家庭科は何より生活に密着した、生活の基盤となる科目です。しかし、家庭科は軽視されがちな科目です。美術もしかりです。これらの科目を通して、生きる上で大切な、心豊かで、安心した生活を送ることを伝えていくことがこれからやるべきことだと思っています。

同窓会NOW

楠葉同窓会（経済学部）

「佐大生起業家として」

佐賀中国語教室ちゃおず 代表 範 東洋彦
 （経済 H30 年卒）



你好～(ニーハオ)! 皆さんこんにちは。2018 年卒業の範 東洋彦(ハントヨヒコ)と言います。

現在、佐賀駅前で"中国語教室ちゃおず"を運営しております。今年で創設 9 年目を迎え、4 名の先生と 50 名の生徒さんと一緒に日々楽しく中国語学習に励んでいます。

私は中国出身の両親の元に生まれ、佐賀で育ちました。ちなみに父親も佐賀大学卒業生です。幼少期の話になりますが、外国にルーツをもつ私は差別を受けました。特に当時日中関係の悪化が報道されたことも相まって私は居場所を失いかけたことさえありました。いつか自分にルーツのある国のことを知ってほしい!何か自らアクションできないか?経営者の父親の影響も受け、佐賀と中国を繋ぐ経営者になると決意し、その思いを志望動機書に走らせ、佐賀大学経済学部経営学科を受験しました。

入学 1 年目、履修していた中国語の授業で同じ経営学科の友人と出会い、力を借りながら中国語講座を起業しました。

しかし、すぐ軌道には乗らなかったため、縁あって中国の水餃子事業を始めることにしたのです。イベント出店から店舗オープン、株式会社設立まで、佐賀大学生起業家の看板を背負いながら様々な経験をしてきました。学内にまでテレビ密着取材が入り、堂々と佐賀と中国を繋げる!と豪語したのを今でも覚えています。

このように佐賀大学がなかったら当時の私は成り立たないほど、とてもお世話になりました。卒業後はことばを通じてより深く中国を伝えたいと中国語教室を主軸事業にし、今日に至ります。

今後の目標は、路面店として中国茶館が併設する体験型の中国語教室を開校することです。将来は、たくさんの方が面白い中国文化を楽しく体験できるカルチャーセンターを開館させたいです!そして、いつかは佐賀大学の教壇で母校の生徒に中国語を教えられる日を夢見しております。

長い文章でしたが見て頂きありがとうございます。

同窓会NOW

医学部同窓会

「灯」

佐賀大学医学部 近藤 建佑 (医 H27年卒)



私は2011年に佐賀大学医学部附属病院の看護科へ入学しました。入学当初は実家の柳川市から通学していましたが、大学3年生の実習開始を機に一人暮らしを始めました。実習では大変なこともありましたが多くのことを学び、4年間の大学生活では友人や先輩後輩との出会いがありとても充実した時間となりました。

大学卒業後は佐賀大学医学部附属病院の高度救命救急センターECUに勤務し現在9年目になります。ECUでは病棟・救急外来・ドクターカーやドクターヘリなど様々な業務があります。知識を身に付け経験を積むことでステップアップしていくことができます。私は今年度より

ドクターヘリのフライトナースとして活動しており、日々自分の活動がどうであったのか、もっとこうした方が良かったのではないかと自問自答しながら取り組んでいます。私は入職時よりフライトナースを目指して頑張ってきましたが、熱心に指導して下さる先輩や、辛い時は共に支え合う同僚のおかげで今の自分があると思います。私が入職時に抱いていた小さな灯は雨風に揺られながらも絶えることなく光り続けています。これからも高度救命救急センターの看護師として頑張りたいと思います。

同窓会NOW

菱実会 (理工学部)

「佐賀大学に入学し、半世紀」

松尾建設株式会社 樋口 幸弘 (理工 S53年卒)

佐賀大学に入学したのが1974年の4月、2024年で半世紀となります。卒業後は、地元(佐賀)の松尾建設(株)に入社し、早46年が過ぎようとしています。

会社では1978年～2005年(27年間)の間は土木工事の現場担当者として、念願であった地図に残る工事に携わることができました。

2005年からは業務が大きく変わり、労働災害防止の推進を担当する実施する部署に異動し、2012年ぐらいからは、建設業労働災害防止協会の講師も委嘱されるようになりました。

現在も同じ会社の契約社員として、立場こそ変われど

労働災害を少しでも減らすため、現場のパトロールや安全講和、指導を続けております。

私生活では、二人の子供(長女、長男)は、それぞれ大阪、東京で家庭を持ち、3人の孫の「じいさま」、妻「ばあさま」となった私達夫婦ですが、二人とも元気で今も毎日、忙しく働いております。



同窓会NOW

農学部同窓会

「一人前の佐賀県職員に向けて」

井出 みずき (農 R5年卒)

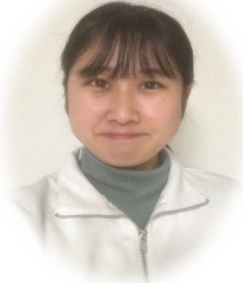
私は、令和5年に生物資源科学科 食資源環境科学コースを卒業しました。学生時代は、浅海干潟環境学研究室に所属し、東よか干潟のシチメンソウに関する研究を行っていました。

大学生生活を振り返ると、コロナ渦でオンライン授業となり、なかなか大学に行けなかった2・3年生を思い出します。友人や先生方と会えない日々もありましたが、一人一人との繋がりのありがたみを感じる4年間でした。

卒業後は、佐賀県庁に入庁し、農林水産部農山村課に所属しています。担当業務として、農業・農村の持つ多面的機能や自然豊かな農村の魅力を広く県民に知ってもらうための、パンフ

レットやフォトコンテスト等による広報啓発活動や、地域住民による農地や土地改良施設等の農村環境への保全活動推進のための、地域住民活動への支援を行っています。仕事を通して、私も佐賀県の農業・農村の魅力に気づかされています。

入庁1年目で、まだまだ分からないことが多く、勉強の毎日ですが、少しでも早く一人前の佐賀県職員として貢献できるように頑張りたいです。



同窓会NOW

芸術地域デザイン学部同窓会

「支えてくれる仲間たち、制作のリアリティ」

美術家 松尾 匠 (芸術 R3年卒)

昨年度大学院を修了しました。就活はしていなかったため、現在はバイトなどをして生活しています。あまり教訓めいたことはなく、これまでをそのまま書いてみます。このような人もいると思ってみてください。進路をそれほど考えてこなかったのが、修了後は実家に帰りました。数ヶ月ほど過ごしたあと、友人に壁画の仕事が誘われました。その人とは在学中同じ研究室で、ある程度話が通じる間がらでした。僕が暇で時間の融通が利いたこと、実家の車を使えたことなどちょうどいい条件が重なって、僕としても制作に関わる仕事ができるのは嬉しかったので引き受けました。そうした友人らには今も色々なところで助けられています。また、研究室の先生からワークショップや展覧会設営のバイトを頼まれることがあり、たびたび大学に行くことがありました。大学を出入りするつい

で、同級生や後輩の展覧会の搬入搬出を手伝うこともありました。そうしたなかで、たまたま展覧会の話をもら

い、作品を発表する機会がありました。壁画で得た多少のお金があり、定職についていないことから、少しは時間的な余裕をもって作れたと思います。壁画の進捗は不安定な面もあり、ときどき単発のバイトをしながら生活しています。この先どうしていくかは未定ですが、何かを作り続けるベースのようなものを自分なりに見つけていけたらいいなと思っています。



第31回佐賀県青春寮歌祭に参加して

古賀 季夫（経済 S50 年卒）

今年も無事に佐賀県青春寮歌祭を終えることが出来ました。これも平成5年度に始まり、早くも第31回目となりました。参加する大学も年により少しずつ変わりますが、何歳になろうとも、誰でもが青春に戻れるひと時であります。

令和2,3年度とコロナ発生により開催中止もありましたが、大会事務局長の太宅公一郎氏を中心とした仲間の皆さんの熱い思いで開催出来ました。

また、毎回、楽しみなのが、大会事務局長大宅氏の檄文朗読であります。ここには青春寮歌祭に対する「ひとかどならない思い」と「寮歌を人生の応援歌」と捉える感覚に、いつも心がときめくものです。佐賀で開催される寮歌祭は佐賀方式といわれていますが、今年も大先輩である田中宏様をお迎えして、佐賀大学も学生歌、巻頭言、寮歌と田中様のリードの中で、高らかに、演武しながら歌い続けました。

令和6年度も今年同様、11月に開催することとなり、私達、佐賀大学卒業生も安堵と同時に、後に控える後輩の卒業生に、この青春寮歌祭の持つ大学愛、郷土愛を伝えていければと思います。現役、後輩の皆様も是非、ご参加下さい。



佐賀大学ホームカミングデーの開催

佐賀大学校友会主催「第12回佐賀大学ホームカミングデー」が、令和5年10月28日(土)に佐賀大学本庄キャンパス(理工学部6号館)で開催されました。

佐賀大学同窓会としても、佐賀大学同窓会報「楠の葉(第39号)」での呼びかけや同窓会役員等も参加するなど、校友会と連携を取りながらホームカミングデーを盛り上げました。

当日は大学祭の開催中でもあり、多くの学生で活気あふれる学園風景も感じることが出来ました。キャンパスツアーでも様々なサークルの企画を見学できました。また、図書館には朝の連続ドラマで話題になった牧野富太郎博士の植物図鑑の初版本が展示されており、興味深く見学できました。

セレモニーでは、佐賀大学児玉浩明学長から歓迎の辞と近況報告として、「佐賀大学の現状と未来(これから)について」の話がありました。昭和24年発足から現在の6学部へと変わりゆく佐賀大学の様子を映像にて紹介されました。また、数字で見る佐賀大学では学部生の就職率99.1%などわかりやすく紹介されました。同窓会からは会長挨拶を行い、ホームカミングデーの形で大学を開放し説明いただき、感謝するとともに、名誉教授の恩師の先生方との出会いにも感謝の意を述べました。

次に、「佐賀大学産学連携の取り組み～産学連携と日本一・世界一の取り組み～」と題して佐賀大学リージョナル・イノベーションセンター教授 平山 伸先生による講演がありました。大学の質の高い研究を企業と結びつけることにより更に大学・地域の発展につなげるため戦略を策定している様子を説明されました。その上で、佐賀大学には、日本一・世界一の研究が、数多くあることを紹介されました。「世界最高・最先端のダイヤモンド半導体」「世界トップの遺伝子資源」「海洋温度差発電で世界一」「世界最先端のアトピー性皮膚炎慢性化機構の解明」など数え上げればきりが無い内容でした。

次に佐賀大学役員等との懇談会では、事前に提出されていた質問に答える形で進められ、留学生の受け入れの様子がよく理解できました。

また、退官された先生方も多数参加されており、お元気そうな恩師の姿を拝見し学生当時を思い出す時間でもありました。私自身も長年お目にかかれずにいた恩師の先生に思いがけず会うことが出来、こみ上げるものがありました。

秋晴れの中、記念撮影ののち「かささぎホール」にて軽食を伴う懇談会が賑やかに開催され、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

今年参加できなかった同窓生の皆さん、来年は是非大学を訪れてみませんか？

佐賀大学同窓会会長 水田 和彦(農学 S51年卒)

第26回佐賀大学 大学祭「彩虹」

第26回佐賀大学 大学祭実行委員長 山野 英駿

去年に引き続き、今年度10月28日、29日の二日間に渡り、第26回佐賀大学大学祭を開催することができました。当日は晴天に恵まれ、無事に全てのイベントを終えることができました。ご来場して下さった皆様、ご参加くださった各サークル団体の皆様、開催にあたってご理解・ご協力をいただいた近隣住民の皆様、サポートして下さった大学職員の皆様には心より感謝申し上げます。

今回の大学祭テーマである「彩虹」には、『「彩豊かで虹のような」、「最高」の大学祭を「再興」する』という意味合いを込めております。

今年の大学祭は従来のステージ企画や、サークル団体の方々による出店や出し物に加え、例年になく新たなイベントをたくさん追加して開催しました。

外部飲食店の方をお呼びしての出店イベント「キッチンキッチン」、屋外にリングを設置してのプロレスの試合、美容室、アパレル店や歌手の方にご協力いただいて行ったファッションショー、豪華景品がもらえるスタンプラリーなど来場者の方全員が楽しんでいただけるような企画を試行錯誤しながら1から作り上げ、実際に多くの方々に喜んでいただくことができました。

予算、人員、経験どれも少ない状況において全員で試行錯誤し、力を合わせて大学祭を作り上げたことは、私たち大学祭中央実行委員会にとっても大きな成長につながったと思います。

最後になりましたが、多くの方々のご協力の上で第26回大学祭を開催することができました。改めてお礼申し上げます。

コロナによって一度途絶えた佐賀大学大学祭ですが、去年、今年と2度の開催を経て、来年度以降はもっと大規模で盛り上がる大学祭を作り上げるよう実行委員一同精進して参りますので、変わらぬご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



学園祭への協賛の御礼と報告

第4回 医大祭運営委員長 植松 福

日頃より医大祭の運営活動におきまして、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。今年度の医大祭の運営委員長を務めました、医学科4年の植松福と申します。

今年度の医大祭は、昨年度に比べコロナによる規制が緩和されました。そのため、より医大祭を盛り上げようと外部の企業から飲食店を呼んだり、SAGA2024のPRも兼ねた体験会などを実施したりして、多くのお客様に来ていただきました。

準備を進めて行く中で、困難なことは多々ありましたが、後にも先にもない経験をさせていただいたと感じております。これは同窓会の方々のご協力あってのことです。本当にありがとうございました。

次年度の開催に向けて、後輩達はすでに準備を始めております。一生懸命頑張るかと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、お礼の挨拶とさせていただきます。



お知らせ

この度、理工学部同窓会（菱実会）は、「佐賀大学同窓会から離脱する」旨の届出を提出され、佐賀大学同窓会から離脱されることとなりました。

このことにより、佐賀大学同窓会「楠の葉」第41号以降からは、理工学部同窓会に関する記事は掲載されません。また、今後は、理工学部同窓会会員には、送付されないこととなります。

ホームページの閲覧を

佐賀大学同窓会ホームページを開きますと、トップページには、次の言葉が目に入ります。

「たて糸と よこ糸で 織りなす佐大の人間模様」
たて糸は、「先輩後輩の繋がり」 よこ糸は「同期生の集まり」

中を開いていただきますと、「佐賀大学同窓会」と各学部同窓会の様々な活動の様子が記されています。是非ご覧になってください。

（ホームページ） <http://sadai.jp/alumni/>

佐賀大学同窓会報誌「楠の葉」の発行について

会報誌は年に2回発行しています。1回（7月1日発行）は同窓会会員に配付しますが、もう1回（1月1日発行）はホームページでの閲覧となります。会報誌は佐賀大学同窓会の様々な活動が掲載されていますので、是非ご覧ください。



ご意見メール等募集

同窓会や会報についてのご意見をお寄せいただく場合は、郵送のほか電話またはE-mailでも受け付けております。

名前・住所変更等 ご連絡のお願い

住所変更、お問い合わせ等がありましたら、佐賀大学同窓会ホームページ「住所変更・お問い合わせはこちら」からお知らせください。

Tel : 0952-23-1253 Fax : 0952-25-5700 E-mail : dousoukai@sadai.jp

